

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（泊3号炉）
（555）

2. 日時：令和5年7月20日 13時30分～15時05分

3. 場所：原子力規制庁 8階A会議室（一部TV会議システムを利用）

4. 出席者：（※ TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

（新基準適合性審査チーム）

忠内安全規制調整官、天野安全管理調査官、江崎企画調査官、
宮本上席安全審査官※、秋本主任安全審査官※、藤原主任安全審査官、
伊藤安全審査官、小野安全審査官、平本安全審査専門職、
谷口技術参与、中房技術参与、三浦技術参与

技術基盤グループ 地震・津波研究部門

大橋副主任技術研究調査官

北海道電力株式会社：

原子力事業統括部 部長（安全技術担当）、他6名

原子力事業統括部 原子力リスク管理グループリーダー※、他2名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. その他

提出資料：

- （1）泊発電所3号炉 第4条 地震による損傷の防止（地下水排水設備について）（審査会合における指摘事項回答）
- （2）泊発電所3号炉 設置許可基準規則等への適合状況について（設計基準対象施設等）第4条 地震による損傷の防止（DB04 r. 3. 26）
- （3）泊発電所3号炉 ヒアリングコメント回答リスト（第4条 地震による損傷の防止（地下水排水設備））
- （4）泊発電所3号炉 前回審査資料に対する記載適正化箇所リスト 第4条 地震による損傷の防止（地下水排水設備）

以上

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	はい規制庁藤原です。それでは時間になりましたのでヒアリングの方を始めます。泊発電所3号炉第4条の地下水排水設備についてにおける、会合の指摘事項回答、これだと事業者の方から説明してください。
0:00:18	はい。北海道電力の伊藤でございます。ご説明いたします。
0:00:23	2月28日に行われました審査会合にて、地下水排水設備についてご説明差し上げまして、指摘をいただいております本日は、パワーポイントの資料1-1をメインで、あと最後、コメント回答一覧、
0:00:38	方法についてご説明したいと思います。では早速ですけれども、資料1-1の1ページ目をお願いしたいと思います。すいません失礼した3ページ目になります。
0:00:49	指摘事項としては、地下水排水設備の排水経路について、以下を踏まえた排水機能の維持に係る考え方を示した上で、最終的な排水先へ確実に排水可能な経路であることを説明すること。
0:01:02	一つ目で排水配管の間接支持構造物を含む排水経路において成績の位置とする範囲、
0:01:08	二つ目で排水経路においてS s機能維持としない範囲がある場合排水経路の崩落等によって完全に閉塞する可能性、
0:01:15	ということで回答、概要として記載にし、記載しております四角で、
0:01:20	地下水の排水経路は下記の通りと、基準地震動に対して必要な通水断面を確保して排水機能を維持する設計といたします。
0:01:29	まず①番。
0:01:30	排水経路のうち、
0:01:32	湧水ピットデータ湧水ピットポンプから放水ピットまでは、S s機能維持の範囲といたします。
0:01:39	②、放水放水路及び放水工は、S s機能維持が困難であるものの、通水断面が地下水の排水量に対して十分な裕度を有していること。
0:01:50	から完全閉塞の可能性は極めて小さく、
0:01:53	集積の維持されますと、ただ、万一閉塞に至った場合でも、仮設ホース等の資機材を用いて、湧水ピットポンプ出口の地下水配管から、構内排水設備に排水することで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:06	地下水の排水機能を維持することができるというのが回答概要になります。
0:02:11	表1、下の方は今申し上げた内容を取りまとめたものでございます。
0:02:16	スライド4ページ目をお願いいたします。
0:02:20	まず排水機能の排水能力、何を基準にしてるかというところで、既存の湧水ピットポンプの排水能力であります25立米パーアワーと、
0:02:30	いうところで、今現在この値に収まるかどうかというところは、今後浸透流解析でまた確認して参りますけれども、
0:02:41	概ね超えない見通しとなっておりますのでこのポンプ容量というのを、基準にして検討してございます。
0:02:48	下のマル、建屋内の排水経路と排水機能維持ということで、湧水ピットポンプ、地下水排水配管、一次系放水ピット、
0:02:57	湧水ピットポンプ、宇津模式の縦置きポンプですけれども、これは通常、記念側で行う評価でS _s 機能維持としますと。
0:03:07	地下水排水配管も同様に堰の位置とするんですけれども、
0:03:11	電気建屋耐震Cクラスで、地下水排水配管が布設される建屋地下部の最大せん断ひずみが耐震Sクラスの間接支持構造物に要求される。
0:03:23	費用限界以下となることも確認しまして、間接支持機能があるというところを確認した上で配管側、通常の評価を行って成績の1としますと、
0:03:35	それから一次系放水ピット。
0:03:38	こちらは、これ電気建屋と一体構造なんですけれども、電気建屋は波及的影響評価の評価もありますので、
0:03:48	終局状態に至らないことを確認すると、これによって接続されている原子炉補機冷却海水放水炉の排水経路を維持する設計といたします。
0:03:59	下の添付7-2の図で大体の今申し上げた経路の概要をお示ししているということです。
0:04:09	5ページ目をお願いいたします。建屋外の排水経路と排水機能維持と、こちらは原子炉補機冷却海水会水路、放水ピット放水路、放水路及び放水工

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:04:20	まず原子炉補機冷却海水放水量ですけれども、こちら耐震Cクラスのボックスカルバート構造。
0:04:28	現状は埋戻量によって支持されておりますけれども、カンジャク構造に変更することとしまして、
0:04:35	基準地震動に対して、終局状態に至らないことを確認し、しますと、排水経路をこのように維持しますと。
0:04:42	放水ピット、耐震Cクラスの貯水ピットで、こちらは岩盤に支持されております。
0:04:49	今後耐震Sクラスの津波防護施設、浸水防止設備、こちらの間接支持構造物となりますので、構造体は、終局状態に至らないことを確認することで、排水経路としては維持されると。
0:05:02	さらに、津波防護施設等、こちらは耐震Sクラスで設計するので、流路縮小工とか海水、補機排水の経路になりますけれども地下水の排水経路になりますけれども、こちらの追跡の明示されません。
0:05:16	最後放水砲スイッチ及び放水子耐震Cクラスで、
0:05:21	こちら基準地震動に対して終局状態に至らないことを示すということはなかなか困難なところがございますけれども、地下水の排水量が小さく、これに対して、
0:05:32	22万強を流す断面を有しているということで、まずそこに大きな余裕があり、また、柏崎刈羽女川、
0:05:46	同様な施設に、地震時に、致命的なダメージというか、精製機能に影響を及ぼすほどの損傷が認められていないということで、
0:05:56	地下水が排水できなくなるような完全閉塞の可能性というのは、極めて小さいと考えてございます。ただ、冒頭申し上げました通り、万一、
0:06:08	閉塞に至った場合においても、運用管理として配備する仮設ホース等の資機材で地下水排水配管と構内排水設備を接続して、
0:06:18	排水機能を維持することを考慮した対応を行うということが回答でございます。
0:06:26	それから、すいません資料1-2で少しだけ
0:06:37	右下の投資版で60、7ページ。
0:06:43	お願いしたいと思います。
0:06:48	添付の7-1表というのがございます一次系放水ピットへの排水流量一覧ということで、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:06:55	ヒアリングのコメントの中でどんなものが流れ込むのかというところも明らかにしましょうっていうのがありましたので、こちら地下水排水に、
0:07:05	加えて、原子炉補機冷却海水系、こちらが一番大きいですがけれども、それから液体廃棄物処理系、廃液蒸留水ポンプからの出口ということで蒸留水ですがけれども、
0:07:16	一次系放水ピットに流れ込んでおります。
0:07:19	その他こちら、添付資料を改めて作ってますけれども、排水経路の構造がわかる図面を添付しているというそういう資料になってございます。
0:07:34	それから、資料の1-3をお願いいたします。
0:07:39	今申し上げあげた排水経路に関わる部分以外で、コメントとして残っているものをざっと状況お話しさせていただきます。
0:07:49	11-2をお願いします。
0:07:52	は、地下水の湧水量の
0:07:56	浸透流解析の話、先ほどしましたけれども、今後、浸透流解析、また保守的なモデルとなっていることを確認して、
0:08:06	工事計画認可段階でお示しするというそのコメントは、まだ残っている状況でございます今対応中でございます。
0:08:15	それから11-3ページをお願いします。下の方にナンバー15番で、
0:08:23	第三条の地盤安定性評価において算出される当該部位の岩盤の局所安全率ということで、地下水の集水配管。
0:08:33	岩盤の中にありますけれども、岩盤上にありますけれどもこちらの岩盤の局所安全率の結果から入れる。せん断破壊の状況を踏まえてもということで、
0:08:45	こちらはまだ今後御説明ということになってまして、局所安全率に係る資料提出さも進んでるといふふうに認識してございますけれどもヒアリング日程とまだ決まってないということで、
0:08:56	こちらは今年の9月を目途に、改めてご説明ということで、日時を変更してございます。
0:09:07	その他本日回答となっている部分につきましては、今、
0:09:12	前にご説明差し上げた内容と重複しますので、割愛させていただきます。私からの説明は以上とさせていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:09:22	はい。規制庁藤原です。ちょっと質疑に入る前にちょっと資料のまず構成についてちょっとちょっと今、申し伝えたいことありますので少々お待ちください。
0:09:35	規制庁の伊藤です。まず、その資料構成なんですけど、
0:09:39	パワーポイントの資料1-1。
0:09:43	もう、
0:09:46	6ページ以降についてなんですけど、これって前回の会合資料が丸々、
0:09:54	添付されてるような形になってると思うんですけど、これって何、何でこれがかくついているんですかね。今回の会合資料として、前回の会合資料が丸々ついてる。
0:10:05	ちょっと理由がよくわかんなかったんで、教えてくださいませんか。
0:10:09	はい。北海道電力の伊藤でございます。前回資料そのままおつけしてございます
0:10:16	2月28日に受けた審査会合で受けたコメントということで、その際のどのようなご説明を差し上げたのかということのを改めて、参考で示しておくことが有益なのかなというふうに思いました。
0:10:29	また衛藤氏、金に行われております。液状化の介護資料等も参考に、こういう対応というのが望ましいのかなと思ひまして、ちょっとやっていますけれども、
0:10:43	はい。必要性について改めて社内で確認したいと思ひます。
0:10:47	はい。規制庁の伊藤ですして聞いを説明する経緯とか今回の説明内容がどんな位置付けなんですとかかというのは、別にこの、この会合資料丸々後ろにつけなくても、
0:11:01	冒頭2ナカ1枚や、
0:11:04	つけて、説明概要的な1枚をつけて、別にそこで説明してしまえばいいんじゃないかなと思うんで、これについては今後検討するということなので、
0:11:17	適正化等を検討していただければなと思ひます。
0:11:21	はい。北海道電力の人でございます。一番最後に、まとめの資料も今の時、資料ついてますので、そちらが説明があるかなと思ひます。その辺りも参考にして、使え、使ってですね、
0:11:33	丸々付けという対応を改めたいと思ひます。以上です。
0:11:39	はい。規制庁藤尾ですけど私もちょっとこの同じ観点でまとめ資料の方ですね、資料1-2の方ですね、刺さって見たときにですよ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:50	今回の要は審議の対象となる箇所って、どこですか。
0:11:56	という問いかけは、同じ、あまりの審査の対津波の中で、対策2回ぐらい行ったんすかね、耐津波の多分担当が、
0:12:07	異なるそれぞれのご担当の方に、私どもから毎回申し上げてます。これ3度目です。
0:12:14	要はまとめ資料について、今回の審議内容の対応箇所はどこですかというのは、もっと明確にしてください。例えば、資料1-2の3ページの、
0:12:26	目次、ここで今回の審議対象はどこですかというのは、資格がコメディするなりこれ耐震の方でも多分やっただいてますよねヒアリング資料とかでも、それはもう当然やることとした上で、
0:12:37	あとは何ですかね。
0:12:41	他の今回の対象の箇所はこの該当ページにおける、大分その赤枠で囲って、今回の説明範囲だとか、
0:12:50	そしたらこれまでの審議結果ってのは当然今のパワポで、仮に省略したとしても、それはもう以前審議が、
0:12:58	やったやつなんですねっていうのはわかるものになるかと思うのであるイワマし終わったかまだ終わってない方もあるかもしれないけど一応そういうのをちょっと
0:13:07	泊発電所の審査全体としてそちらのなんすかね。我々に対する説明として統一した、ちょっとやり方をもってちょっとやっただかないと我々もちょっと
0:13:19	すごい混乱するんですよ。それちょっとし、あんまりちょっと良い進め方にならないと思いますので、それちょっとミシン再度そちらの社内に
0:13:29	徹底いただけたらと思うんですが、いかがですかね。
0:13:37	北海道電力の岡田でございます大変失礼しました他の耐震耐津波のヒアリングでやらせていただいている、本日の説明事項がわかるような目次を作って、
0:13:48	対象がわかるようにちょっと、我々の社内の方でも徹底していきたいと思います。以上です。
0:13:55	はい。それでは質疑の方に入りたいと思います。私の方からまずですね岩盤部と地盤部に設置されてる方水路の通水性というところでちょっと

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:07	お話をさせていただきます。5 ページを、パワーポイントの 5 ページを開いていただきまして、
0:14:14	図が、縦断図が断面図がありまして、
0:14:19	ここ 2 報水路と呼ばれる、要は海。
0:14:24	から放水ピットに至るトンネルがあります。これ、まとめ資料の方がちょっとわかりやすいですね。どういう資料の資料 1-2 の 69 ページ。
0:14:33	開いてもらっていいですか。
0:14:41	大丈夫。
0:14:46	はい、じゃあ 69 ページ開いていただけたと思うんですけども、そこに図があってこれすごい、ちょっとわかりやすくなってて要は、
0:14:53	放水炉っていうのは、岩盤と地盤を、の、ちょっと何か跨ぐような形で設置されてて、この文章によるとシールドトンネル、
0:15:04	600 メーターの仕切れトンネルっていうふう書いてますんで、
0:15:08	多分この岩盤の、主んちシールドトンネルであって地盤もシールドトンネルというご説明なんですけど、ちょっとよくわかんなかったのは、
0:15:16	この岩盤をシールドトンネルなんですかね。ちょっと伺いたいのはず、
0:15:23	どんな構造化しようかってちょっとこれ今後明らかにして欲しいんですけどまずちょっとす、この事実をちょっと教えてもらっていいですか。
0:15:38	なるほど。そうですね。
0:15:46	北海道電力の伊藤でございます。あぜ全長にわたってシールドアノトンネルというふうに認識してございますけれども、
0:15:55	詳しいそのセグメントの構造等、本店側の方から補足をいただくと助かりますけれども、いかがでしょうか。
0:16:07	はい。北海道電力の岡村です。すいませんちょっと詳しい構造のところまで現状口頭で補足すること難しいので、ちょっと今現時点でお答えでいくことがないですすみません。
0:16:28	規制庁藤原です。まとめ、パワーポイントのところにですね、5 ページにですね、何だっけな。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:37	一番下の矢羽根かな、また、これこれこれのような、痛惜の影響、地震の損傷は認められず、損傷が発生したとしても、不感完全閉そくの話がちっちゃいと。
0:16:50	考えられることから、通水機能が維持されるものと考えたと書いておるといふところに関しては、おそらく私としてはその構造なり、
0:17:00	そういったどういった施工でやってるのか。
0:17:03	あと本木の岩盤と地盤との境界部とか、
0:17:08	どういうふうにやってんだらうとかですね、或いは構造弱部、地盤の弱部とか、いろいろあると思うんですよ。
0:17:14	そういったものも踏まえて、
0:17:16	こういったスズキの方が、何だろう、維持できるんだらう。
0:17:21	ていうことを北海道電力として、言ってると思ってたんすけど、どうも違うようですので、ちょっとそれについてはまず第一段階としては、まず、
0:17:33	今回のこの方水路について、本シール部トンネルの構造と仕様を明らかにしてください。
0:17:42	あと、それに伴ってその中間立て坑とか、多分試運トンネルを作る際には、麻痺設けるとお思いますので、そういったものの有無、
0:17:50	サトウ、トンネルのさっきの地盤と、
0:17:54	岩盤と境界部案、当然弱部なんで、運休変換率は1号炉集中してると思うんでそういったところはどんな構造なってるのか、まずそういったところをちょっと明らかにしてください。
0:18:06	それに加えて、岩盤部とか地盤部とかなってますけども、何か単純にそれだけだとよくわからない。例えば、地盤って言ったら、いや、岩盤じゃないんだったら液状化するのとか、
0:18:18	いろいろありますよね。まずだから、地盤と岩盤越えて地質と地盤構造を明らかにしてください。そういったもろもろの総合的な情報をかんがみて、本当に通水機能を確保できるのですか。
0:18:33	これについてはまず説明いただきたいと思っています。この件、いかがですか。
0:18:43	はい。北海道電力の伊藤でございます。放水路トンネルの構造ですとか仕様ですとか応力集中、中間立坑の有無、浜と地盤。
0:18:54	に関しては、どのような地質であるですとかその観点で

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:00	総合的に通水機能は我々が維持できるとどのように考えたかと、そこを明らかにせよということで、承りましたので土木課とも協調しながら対応を検討いたします。以上です。
0:19:19	基本的に行き当たりばったりで書くんじゃなくて、ちゃんとエビデンスを持って書いていただかないと。
0:19:25	うん。ここって、地中構造物は僕は15坪の地中構造物なので、
0:19:30	小機定性的な話で、
0:19:34	S sに対して機能保持通水性保持できるんだったら、別に
0:19:39	S sに対する耐震計算書と言わないですよ。
0:19:43	だ計算書って言ってるわけじゃなくて、何らかそれなりに計算しなくても大丈夫なんだって言ってるんで、
0:19:50	ある程度、通水機能が保持できる。
0:19:53	ていうことを言っているの、それなりの理由があるはずなんで、例えば連携関係は割と、
0:20:01	地震の荷重を受けると祖先いわゆる剪断変形っていうかかなり変形しやすいけども円形であればしにくいよとか、しかもシールドでRCセグメントなんで、
0:20:12	スチール製土どめだそうですがセグメントの形状なんで、
0:20:16	玄関リンク継ぎ手があって、リング継ぎ手通りをもっとそういうところで、弾性ワッシャーとかつけて、基本的には施工的に
0:20:27	何だろう、フレキシブルな構造にしているの、
0:20:30	いわゆる変形を変形で逃げると応力を逃がすような周知をさせないような構造になっているとかですね、何らかそういう理由があってそういうことを言っているのかっていうこともわからないですし、
0:20:43	いわゆるその、
0:20:46	構造的にどうなのか、あと、地盤が岩盤であれば、かなり岩盤が貢献個ですから、岩盤の中が保持でき、岩盤の形状が保持できればその内側のトンネルの形状も保持できる決まってるからそこが壊れたとしても、岩盤が、
0:21:00	残っていれば岩盤の下が空洞ですからそこには海水が流れるって言ってるのかもしれないし、ただ、地盤もありますよねって地盤がどういう地盤なのかっていうことで、その辺がよくわからないという話があるので、
0:21:12	ここってのは、ちゃんと調べた上でおっしゃってる話なのか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:21:16	何も考えないって言っているのか、そこを我々も見極めないといけないので、それはしっかりと書いていて、根拠を示していただく必要があると思います。ではCが、
0:21:26	このフジワラの言ったことに行くさっき加えてですね申し上げたいのは、ここで言ってるのは、
0:21:33	これ書いてある。
0:21:34	加瀬Kとか、女川とか、
0:21:37	言っていますがその先行2サイト、先行でやってるサイトに再度ですよ。
0:21:43	ここどうなってるんですけど、この2サイトと、この泊サイトの方水路の構造や地質構造は一緒なんですかと。
0:21:52	いわゆるそういった観点から
0:21:56	適用性、類似性っていうのをちゃんと説明していただかないと、
0:21:59	おそらく地震動は違うし、してもですね。
0:22:02	地質とか、
0:22:07	シールドトンネルでかつ総数同じセグメント、
0:22:11	形態なのか。
0:22:13	警報
0:22:15	内径は、
0:22:17	基本的には、
0:22:18	泊の方と同等かもしくは、
0:22:21	先行サイトの方が大きい形なんで、
0:22:25	耐震性としては厳しい状況になってるとかですね、何らかそういう説明がないと。
0:22:31	今書いてある文章ってのは成立しないんだと思います。その辺はちゃんと説明いただく必要があると思っています。
0:22:38	そういうところにですね計算しなくて大丈夫ですって言ってる以上は、
0:22:43	一般産業施設、
0:22:45	椎野等でたくさんあってますよねこれの地下鉄もやってますしそちらの、
0:22:49	それが自信がないからだけど、多分ハタとかの辺の近くだったんす。仙台の地下鉄だとか、
0:22:55	もう大畠粟野地下鉄とか言われますよね。その辺の地下鉄とか、またその阪神大震災の時、いわゆる兵庫県南部地震の時の、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:07	地下鉄だとかそのシールド下水もありますよね。そういったもので行ったときにそういうシールドトンネルで、こういうのは、軟弱ある程度もっと厳しい軟弱地盤でも結構ですけど、
0:23:18	荷重状態が厳しくなるそういうところでも、基本的にはシールドが
0:23:23	トンネルが、
0:23:24	大きな訴訟を起こしてなくて多分下水だとしたら玉状に通信機能ですよね。
0:23:30	データの
0:23:35	地下鉄だったら基本的にはナカの内部空間が大きく、
0:23:39	軽微な層しか来てないとか、
0:23:41	そういった話なのか。
0:23:44	そういったことも調べた上でおっしゃってるのかっていうことなんで、そういったことも加えてですね、その一般産業施設の
0:23:52	被害事例も踏まえて、泊と同等の施設が内部空間を創出し、したような事例は、
0:23:59	全くないのかということも説明していただかないとここは成立しないと思うんですよね。そこも計算しないのであれば、
0:24:06	これはいかがですかね。
0:24:12	はい北海道電力の伊東でございます。先行のは、原子力発電所の施設とどのような差異があって我々の痛惜の妥当性があるのかってところは、
0:24:24	今一度改めて確認して、お示ししたいと思っております、
0:24:28	シールドトンネルが地下鉄ですとか、その他下水の話も出ましたけれども、
0:24:38	著しい損傷がなかったというのは、
0:24:41	ちょっとすいません今協議会とか連絡会の連合会、名前がすぐ出てこないんですけれども、ホームページと確認しております、基本的にその包絡したような事例というのはいないですと。
0:24:54	ということが確認しておりますので、その辺りも含めてご回答したいと思います。
0:24:59	震災事例の中では建築学会土木学会。
0:25:03	地盤工学会とか、多分幾つかの学会協賛で全部整理されたはずですよ。そういったものにどれだけの事例だと、数だとか件数だとか全部まとめられてると思うのでそういったものを含めて、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:16	そういったものをバックボーンにしてちゃんと説明いただくということが重要だと思いますんで、それは説明をお願いします。柏崎は基本的にやるやつでシールを使ってないですよ。
0:25:29	多分、
0:25:30	解釈トンネルの矩形の共同工みたいな。
0:25:35	矩形のあれですよ。
0:25:38	こちらで言う、碓井。
0:25:40	水道みたいな状態で施工されてんじゃないすか通報するっていうのは、
0:25:46	北海道電力の井戸でございます柏崎女川ともに、矩形の放水量だったというふうに
0:25:55	調べております。だから使えないってことはないけども、そこからかんがみて同園が円形がの資源っていうんですか、真円のものとそういうような、
0:26:06	ボックスカルバート状のものとどっちが受振人として厳しいのかということも踏まえた上で、考察する必要があると思いますんでその辺をしっかりと地盤ですよ、地盤の方と岩盤
0:26:18	カシワギは、岩盤中に入ってるわけないと思うんですけど、
0:26:21	それがどうだったかちょっと覚えてませんが放水量に関しては、それも含めてですね同等性があるのかどうかというのをちゃんと説明していただきたいと思います。よろしくお願いします。
0:26:33	それでね、基本的にそこは説明できないのであれば、何らかし、
0:26:39	対策対応方針というのを立てていただく人もいます。いわゆる、
0:26:43	実際に要求はないんですけど、
0:26:47	いわゆる水水がそこを流末まで流せるという
0:26:51	何か担保をとる必要があると思うんですよ。その計算で、
0:26:56	やるのか。
0:26:58	かなり極限解析的なものでも別に構わないと思うんですけど、そうしたもので検討するのかわつてのは一つありますけど、それをしなさいということではないんですけど、何らかその、
0:27:08	担保をとる必要があると思います。それがもし、
0:27:12	担保取れないという話であれば、基本的には、
0:27:16	割と長さ流せれば流せん流しますっていうだけであって、ここに書いてあるように、流せるんだけど万が一、
0:27:28	仮設ホースを使って、流末に持っていくっていう。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:33	何て言うんすかね。
0:27:36	ロジックではなくて、
0:27:38	流せれば流すけども流せなければ、
0:27:42	仮設ホースを使うってことで仮設ホースの重要性は、今よりも高まるんじゃないかと思うんですねロジックがちょっと変わると思うんですが、その辺も考えてですねどういう形にするのかともう一度、
0:27:53	検討いただけますでしょうか。
0:27:57	はい。北海道電力の人でございます。ご指摘、承知いたしました我々として通水機能、しっかり説明できるようにまずは準備させていただきます。
0:28:09	その上で、仮設歩数の取り扱い、どのように位置づけるのかというの、その結果を踏まえて整理して、お示ししたいと思えます。以上です。
0:28:41	ちょっと今庁内打ち合わせ少々お待ちください。
0:29:50	規制庁じゃちょっと
0:29:53	仮設ホースの元ちょっと重要度についてはいろいろまた、先ほどのエザキの話を含めてこの数にどんだけ期待するかってのは示されると思うんすけど、ただ、
0:30:03	何ですかねちょっと幾つか事実確認ちょっと私の方でさせていただきますちょっとまず記載だけかな、3ページの方の、仮設ホースこの表1で、
0:30:13	何ていうんすかね。評価のところ耐震Cクラスの子かな、ここで何か仮設ホースで排水可能って書いてあるやつが、これなんか上の方の施設を見るとホース色とホース1及び放水工程なってますね。
0:30:28	これはあれですかね本水。
0:30:32	品、
0:30:33	当間出野。
0:30:35	中国、
0:30:46	これはそうですね仮設ホース窓、どこが一、どっから繋いで、どこに排水するのかというのがちょっとわからないので、もしその重要度をかんがみて、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:30:58	ちょっとどんなところに置くのかというのは、場合によっては図で示すとか或いは、或いは文章で示すとかいろいろあると思うんですけど、もしかしたら繋いだやつを、
0:31:08	屋外構内排水炉に流すだけなのか、それとも膨張て孝子すとか、いろいろ多分あると思うんですけど、本来はこんな排水設備かな。
0:31:18	こんな排水設備どこにあるんですかとか、多分あると思うんですけどね。その辺、
0:31:35	規制庁の江寄です。これって、これは基本度4人ぐらいの審査官から同じことを言ってんですけど、資料わかんないんだよ。
0:31:45	何言ってるか。
0:31:47	いわゆる、すごい。
0:31:49	どこからどこにつなぐのかっていうのがわからない。
0:31:53	ので実現性がわからない。
0:31:55	そもそもさ、どことどこをつなぐ綱つないで、スポーは水が上、
0:32:02	排出されるかってのは、実際図面見ても何もわからないわけですよ。
0:32:07	しかもこれって、もともと
0:32:10	毛布湧水ピットポンプ出口の層、
0:32:14	後からの地下水配管とかその辺って、と、
0:32:18	基本的にはこんだけ、
0:32:21	補助建屋をナカなくなるわけでしょ。
0:32:24	そもそもが、そこから、
0:32:26	屋外にどうやってホースを切りまして出していくんだらうとかいうのはわかんないわけですよ。実際、これって、
0:32:33	屋外排水管って何なんですかというね。
0:32:37	単なる層を屋外配置するとは違うんですかとか、この辺はわかんないですよ。
0:32:44	実際何をしようとしてるのかということと、実際そういった話で、その他て建屋の中を地下から地上はね、
0:32:52	コースを切りましていくとあまり実現性がないですよ。
0:32:56	できないことないでしょうけど、
0:32:58	そういうことを考えたときに、
0:33:02	何ら説明がないので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:33:04	想像の域を出るものが何もないって疑問しかわからないという書き方なんでこういう訳で回答とか、こういった資料は作らないでください。
0:33:13	はっきり言って、
0:33:15	我々も意見を集約するのが結構時間かかりますんで、審査の邪魔になりますんで、やめていただきたい。
0:33:24	そういうことも踏まえてですねちゃんと回答してください。
0:33:28	はい。北海道電力の井藤でございます。中途半端な状況で、仮設ホースの情報というのをお示ししておりました。お詫びしたいと思います。
0:33:40	図示等で仮にこれが今後も説明対象としてしていく場合には改善しますけれども、今、
0:33:51	は、
0:33:54	パワーポイントの3ページ目の丸2の方ですね。
0:33:58	仮設ホース等を用いて、郵政ピットポンプ出口の地下水排水配管から、構内排水設備に排水ということで、
0:34:08	地下水排水配管っていうのは、4ページ目の
0:34:13	添付7の図で示している水色の範囲となっております。
0:34:19	江崎さんおっしゃった通りで、原子炉補助建屋の地下水配管、地下水排水配管から分岐する場合には、
0:34:27	ホースをつける例えば、分岐管をつけて、分岐する場合には、原子炉補助建屋内の階段等引き回した上で、
0:34:38	屋外に出て、構内排水設備これは包丁て下の施設ですけれどもこちらにあるホースをつなぐと。
0:34:46	あと選択肢としては、電気建屋内にも地下水排水配管はS s機能維持でございますので、そこから分岐をとって、
0:34:56	一次系放水ピットの開口等から構内排水設備に接続すると、そういう対応も考えられるのかなということですいませんまだ、こうしますというところで、
0:35:07	決め打ちで明確にご説明できず、さらに混乱を招くかもしれないんですけれども、しっかり図示で、法制的概要の範囲というのをお示しできると思いますので、対応して参ります。
0:35:21	規制庁の江崎です。私たちの全体のコメントとしてね、仮設ホースの

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:26	接続敷設の計画が実現可能であることがわかるように具体的に説明することってあるので、いくつか案があるのであれば、幾つかこういう可能性、実現の可能性があんがこうありますと。
0:35:38	そういったような図も含めてですね。
0:35:41	説明いただければといいと思いますんで、よろしいでしょうか。
0:35:47	はい。北海道電力の伊藤でございますご指摘、拝承いたしました。
0:35:57	ミヤモトですけどちょっといいですか。
0:35:59	はい。宮本さんお願いします。
0:36:02	刀禰イトウさんの説明が余計混乱を読んでも私は思ってるんだけど。
0:36:07	まずね、ちょっと私がこれ間違ってたら言ってくれたらいいんですけど、3ページで示している仮設ホースでの排水管の説明をしているのは、
0:36:17	放水の放水機及び放水高になってますよと。
0:36:21	この②っていうのは、この耐震Cクラスの放水炉方式及び放水交差してますと。
0:36:27	ですので、ここで言っているのは5ページの絵でいくと、
0:36:34	放水ピットから下流のことを言っていて、
0:36:38	それは逆流防止設備がつくか、移行のところの説明を方仮設ホースで排水するっていう話を、
0:36:48	ここで説明されてるんじゃないかなと。
0:36:50	だから今電気建屋とか、補機放水炉のところは、
0:36:57	耐震性、
0:36:58	を持たすっていうのを、3ページで整理しているように見えるんだけど、
0:37:03	今の井藤さんの説明は電気建屋の仮設ホースの話をしていて、何かこの資料と、
0:37:11	実態が合っていないような気がするんですけどそれは私の認識間違いですかね。
0:37:19	はい北海道電力の伊藤でございます。富山さんのおっしゃる通りで、確かに3ページの②番は、法政両方設置法遂行の話をしておりましてこちらが、
0:37:31	仮に即したとかそういう場合のことをお示しております。なので、それよりそれ放水ピット以降の仮設ホースをについて検討す

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	るのが、示すのが適切ではないかということだと思えるんですけども、
0:37:47	我々、補機放水と原子炉補機冷却、
0:37:52	原子炉補機冷却海水放水炉は、岩着にしてS s機能維持しますけれども、その上流側から、
0:38:02	上流側の電気建屋の地下水排水配管からホースをつなぐことによっても、地下水を確実に膨張して下のICSまで排水設備までへ導く対応も考えますということ、
0:38:16	書いているつもりだったんですけどちょっとその範囲が明確になってないというところだと思いますので、何を考えているのかどこに何を接続するのかというのは、
0:38:27	誤解を招かないように、ずっと使って訂正しようと思います以上です。
0:38:35	アベヤマモトですけど。
0:38:36	今伊藤さんの言ったことどこに書いてあるその電気建屋の話って、
0:38:47	はい、北海道電力の伊藤でございますUCP、3ページ目の湧水ピットポンプ出口の地下水排水配管というところで、地下水排水配管が、
0:38:59	電気建屋と原子炉補助建屋にしかございませんので、あそこで
0:39:08	お示ししているというかそう。そういう意図で書いてございましたけれども、明確になってませんので、改めたいと思います。以上です。
0:39:18	宮本ですけど、明確にすることは必要なんだけど、
0:39:25	北海道電力としてどういう方針になってるのかもちょっとわからないですね。
0:39:30	要はこの3ページで言って冷却スキノ以下で実際あの評価でそれができるかどうかちょっとわかんないかもしれないけど、S s機能維持を目指すって言うてるのは、
0:39:41	放水ピットまでの範囲をまずさしてるんですよ。
0:39:45	それを指してるんだったらまずそこで説明するそれをS s機能維持できますって言う説明はまず、
0:39:52	することが先決であって、初めからできないんだったらこの表にS s機能維持できない前提で、仮設配管の敷設の話を書かなきゃいけ仮設ホースのやつを書かなきゃいけないんだけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:04	それが3ページで一番左のUCPと地下水排水地下水排水配管の
0:40:13	評価のところ評価とかそこに書いてると私は読めないんだけどこれ、どういうもんですか。
0:40:20	はい。北海道電力の伊藤でございます。表1の記載ですけれども、S s機能維持の下にある地下水湧水ピットポンプから放水ピットまでは、
0:40:32	我々として成績の維持を確保しますと、まずそこをお示ししております。耐震Cクラスの下の方水路ホース1及び放水工につきましては、
0:40:45	S s機能維持というところまでは言えないけれども、通水機能は開口が大きいですとか、今までの先行等の実績から、
0:40:56	維持されると、集積の維持されるというところで、表の分けをした上で、ただ、万一、放水砲設置、及び放水工が
0:41:08	詰まってしまったとか、そういう状況も経閉塞を想定した場合でも、地下水は仮設ホースで、ここはだから電気建屋からっていうところが、
0:41:20	私の説明が不足してる部分だと思いますけれども、地下水は適切に排水しますと、そういうことをお伝えしたくこの表を作ったものでございます。
0:41:33	ミヤモトですけど、北電でほかに説明する人いないですけどちょっと今言われてることが私の指摘が理解してるようには思えないんだけど、
0:41:45	すいません北海道電力川本です。資料が悪いってような重々今わかっていて理解しております。その上で
0:41:55	どういうことを言いたかったかっていうことを少し補足させていただきますと4ページのところの下の図でありますけれども、ここに湧水ピットポンプから、
0:42:06	一次系放水ピットまで繋がるラインがございますこの部分はS s機能維持でやるつもりですということで最初の3ページは書いてございます。
0:42:18	で、その時に、その下流ですね、放水炉の方で詰まったとかそういうことがあった場合にも対処できるようにということで仮設ホースという話を書いてございまして、
0:42:34	その仮設放送つなげる先が、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:42:36	今、一次系放水ピットの先城につなげればいいんですけども、これ地下部になってございますので、こっからこう分岐したりすることができないので、今、伊東が申した通り補助建屋のどこから、
0:42:50	分岐を作って、屋外に出していくっていう手順を書いたつもりだったんですけどもミヤモト様のご指摘の通り3ページの表は、一番右のところ、そこが大体、
0:43:04	このコースをやるようなふうに見えるかと思えますんでこの部分がすごく適切だったんだなというふうに認識してございます。
0:43:13	ちょっとお答えになってるかどうかわかりませんが、僕の方ですけど、ちょっと
0:43:18	宮元さん多分おっしゃってるのは放水ピットまでは、そもそも水来るんですよと、地震があっても、
0:43:25	だから、
0:43:26	本来放水ピットから、
0:43:28	例えばポンプでも入れてくみ上げて仮設ホースで捨てるしてっていうのかな、排水させるっていうのが、もうあるんじゃないのと、ここまで水狂って施設機能維持するんだからっていうのが、そもそもの我々のコンセプトなんですけど。
0:43:43	水中ポンプをみたいなもの、そうしないと放水ピットから組めない、そういう案もあるし、今、既設の湧水ピットポンプを流用して、その配管から、
0:43:57	分岐させるっていう案を、今書いてるんだけどいろんな案がある中で、今はその施設の湧水ピットポンプを使って排水すると。
0:44:07	いうのを、頭に描いて今の記載にしているということであってますかね。放水ピット放水ピットまでは、
0:44:15	後加瀬来るんだけど、そこからホースだけでは当然組めない、仮設ポンプを用いて、そこから組むってこともできるし、
0:44:25	湧水本設湧水ピットを使って排水することもできると、今は後者の方を変えていると。
0:44:32	そういう認識で合ってますから、
0:44:35	雨をですけど理解しました要はそのコース仮設ポンプを入れる場所が一時放水ピットなのか、講師ピットが一番外の放水ピットオカダなのかっていうのはまだ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:44:47	それは事業者としては、電気建屋側の放水ピットを今選ぼうとしてるってそういうことですか。
0:44:58	はい北電の井藤でございます。どこに仮設ポンプを入れるかそれもございますし、今岡田が申し上げたんですけれども既設の湧水ピットポンプの
0:45:12	ヘッドを使って、
0:45:16	コースをつなげて構内排水設備まで圧送できないかということもあわせて検討していると、そういうことでございます。
0:45:27	理解しましたようただ構内排水、構内排水っていうのが、結局、防潮での意味ある排水工は多分、
0:45:39	S s 機能維持っていうか耐震性持つんだけどほぼ持たせるかどうかはちょっと私は認識はしてないんだけど、距離のかかる方を選ぶっていうふうに今考えてるということでもいいですね。
0:45:53	はい。北海道電力の伊藤でございます宮本さんのご理解で結構でございます。
0:46:00	はい。私は理解しましたはい私から以上です。
0:46:03	ちょっと事実確認なんですけど、考え方としてね、そういう排水を促すっていう耐震性はあるんですけど、対応性としてね。
0:46:12	例えば取水ピットスクリーン
0:46:17	に流し込むっていうことは考えなかったですか。
0:46:20	あそこを整え、もともとS s 機能維持はしているから、
0:46:24	逆にそこへナカ流してしまったとしても別にね。
0:46:27	問題なかったんじゃないですかっていう中で関電なんかはみんな基本的に
0:46:32	水路構造なってるんで、高浜とか、何かそう、溢れかえったとしても、みんなそういう水路の中に流れるという、
0:46:40	取水炉常陽すす常用系の水路がずっと、
0:46:44	丸栄と東西に横断してますんでね。うん。そういうストーリーなんだけど、
0:46:51	ずっとそれで考えた時に行った時にそういったところに流れ込んで問題ないんだっていうふうにしてもおかしくはないと思うんですがそこは何か。
0:47:01	そういう形にすると、何らかその機能的に、
0:47:04	発電所規模として何か問題があるんでしょうか。
0:47:08	はい。北海道電力の伊藤でございます。確かに江崎さん。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:47:12	今おっしゃった通りで、伊勢水ピット側に、
0:47:18	防水併記等ありますけれども、乗り越えてってというような対応を、
0:47:24	そうですねはい。そういうのもありますけれども、
0:47:28	なるほど。はい。
0:47:33	まずは本来排水するために設ける施設として、構内排水設備がありますので、そちらに排水するのが適切ではないかということで今の廃排水先は、選定したものでございます。
0:48:10	庁内で打ち合わせ中です少々お待ちください。
0:48:37	存在ちゃう。
0:49:34	はいちょっと今庁内打ち合わせを終わりますので中間委員さんのお話があるということで説明ください。北海道の兼田でございます。まず混乱を招いてしまったこととお詫びいたしますどうもすみませんでした。
0:49:45	我々としましては、まずはその放水量につきましては、耐震取ってということについてはやはりその評価上は難しいと思っております。アノし、計算でやるってことについてはできないだろうと考えてます。
0:49:55	しかしながら、柏崎とかあと東海とか、大きな地震食らってる発電所もありますので、そことの差については今日ご指摘いただいたようにそれをちょっと整理した上で、
0:50:06	比較して、遜色ないもしくは我々ともすぐれてるかもしれないですしそういうところを整理いたします。
0:50:12	それプラス、一般産業界でもたくさん地震からってまさに地下鉄だろうとか土木の構造物がありますのでそういうところのデータ一応見てはいたんですけれどもその辺の整理を進めた上で、
0:50:23	まずはその方水路の流路を確保できるってところについての整理したいと思います。
0:50:29	ただそれだけではやはり 100%大丈夫だっっていうふうに言い切ることができかどうかのちょっとわからんでもありますので、今、もともと考えております。地下水の廃止については、こうこういうやり方をしますってことを少し具体性のある形で、図面も含めた説明でわかりやすい形で資料でまとめたいと思います。以上でございます。
0:50:52	規制庁の岩木です。多分そうね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:50:54	いくつか案があるんだと思うんですけどそう考える案をある程度示していただいて、
0:50:59	こういった案がいくつかあって、実現が可能なんですっていう、いうことを説明いただければ、我々もその、その詳細設計の段階までに何をすべきかというのが見えてきますんで、
0:51:09	今のところ、長屋戸田どこに何をつなぐかもわかっていない状況なので、さすがにその辺はちょっと、
0:51:16	判断しようがないので、適合性の判断ができないので、この辺はもう少し具体的なものを、
0:51:23	印でお書きくだしていただきたいと思います。以上です。
0:51:27	北海道の兼田です。承りました。そのように整理いたします。
0:51:38	はい。それでは、私の方からちょっと電気建屋と一次系放水ピットの要求される機能、また維持耐震関係でちょっとお話しさせていただきますで、
0:51:48	パワポの3ページをまず開いてくださいちょっとこの、
0:51:51	まず要望的なところなんですけども、この3ページのこの表の1、これは排水機能の維持方針というふうに書かれてですね。
0:52:00	今言うロジックだけなんですけど、この評価として例えばS s機能維持のところなんですよ構造健全性役は理解できる、要は健全だったら、当然断面変わらないよねと。
0:52:12	いえ、終局状態に至らないことこれがちょっと繋がりがちょっと弱いなという。一応、5イシイさをやっているものは、お馴染みかも知れないもの、ただこの資料ってのやっぱり当然、
0:52:23	広く公で、論理的にその内容を説明するものであればもうちょっとその排水機能と、終局状態でそのナガエ中間をどういうふうに、
0:52:35	取れるかっていうのはもうちょっと書き下した方がいいのかなと。
0:52:38	それは多分何だろう、これまでの先行の設工認とかでもよく、何ですかね、通水機能とか言うか、いういうのも、何か維持、多分近いと思うんですけどそういったものはその構造強度を確保することで、
0:52:51	通水機能が維持できる設計とするだとかですね、そういった通水機能を閉塞するためには、当然部材が終局に至らないとか、多分ロジックが何がしかあると思うんですこれちょっともうちょっと

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:02	はっきりさせた方がいいのかなと思います工程いかがですかね。
0:53:08	はい。北海道電力の伊藤でございます。ご指摘、承りました。終局状態に至らないことで、どうして痛惜のが維持できるのかというところを、
0:53:19	先行設工認等の記載も踏まえて、充実させたいというふうに思います。以上です。はい規制庁藤原です。それを踏まえてと、4ページ、パワポの4ページを開いていただいて、
0:53:31	今度ですね電気確定後一次系放水ピット特に一次系放水ピットですね、この4ページの二つ目の丸の一番最後の矢羽根。
0:53:43	この内容についてです。衛藤。
0:53:46	一応ですね内部溢水の方の審査の中においては、一次系放水ピットについては、やっぱり当然し完全止水が確保できない。
0:53:59	ため、やっぱり、幾らか水が漏れることを考えて、ただそれを保守的に評価の中でやってる。
0:54:07	というのはわかってますで、
0:54:09	一応そういった状態を踏まえると、要は何ていうかさっき終局状態。
0:54:15	て言ったとしても要は、無漏えいじゃなくてただ、水が漏れるただ排水ができるという多分そういった位置付けのときに、やっぱり多少漏えいがあるというのはやっぱり、電気タケナカにある、これは多分事実としてあると思うんですね。
0:54:29	そういった今、例えば終局状態で設定した事実に対して、漏れた場合に対するその手当がどこに何かないので、本当にこの排水できるんですかっていうところまでのロジックがちょっと繋がらないんですね。
0:54:42	なので、一応、ここでちょっともうちょっと明確に、明確というか何か補足的に書いた方がいいのは、
0:54:50	また条文の方でどういうふうなことをやって、だから、要はこういう状態が今考えられる。でもそういった状態であっても、排水はできるんだと。
0:55:02	多分何か確か放水路の天端までの推移を想定されてますよね。
0:55:08	ですから、まず、一次系放水ピットは、完全に止水所は確保できない漏れがあるとしても、ただ電気建屋に水がある場合よってもやっぱり排水系はそこまでのロジックをまず整理ください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:55:22	その上で、ちょっと気になる人がいるようだったら、建屋内の中に水がジャブジャブ入って大丈夫なのっていうに関しては、別途、他条文の方で、ちゃんと
0:55:32	やってますみたいなそういった米印の補足に近いような今回のコメント回答とちょっと違うかもしれませんので、そこはただ補足的なものになろうかと思うんで、一応その辺りはちょっときちっと丁寧に、
0:55:46	言っていただけますか。
0:56:16	今北電自動イトウですけども社内うちわ中です。
0:57:25	はい、北海道電力の伊藤でございます内部溢水側で、補機放水量の天板までイシイ水を電気建屋内に想定した上で、
0:57:35	評価を行ってますというのはその通りでございますで、その場合でも、原子炉建屋側、原子炉補助建屋側の
0:57:46	壁ですとか扉ですとかは申請されてますので、特に安全上重要なものに影響はないっていう結果もお示ししているというところで、
0:57:56	電気建屋内の水位がどうなるのかというところはこの資料に反映するとともに救助側で、そのように重要建屋側に影響がないことを示しているということは、米印で、
0:58:08	書くというような対応で考えたいと思います。以上です。
0:58:16	規制庁の江崎ですがちょっとそこで確認なんですが、
0:58:21	私が審査官からも多数確認の声が上がってるんですが、いわゆる電気建屋、
0:58:29	もう
0:58:31	行動観察C Sクラスの間接支持に要求される許容限界としては、2000枚くらいあると思うんですよね。そう認識でいいんですよね確か。
0:58:42	建築側からそういうふうに聞いたしか聞いてるんですけど。
0:58:46	であれば、終局じゃないんですよ。
0:58:49	我々の規制基準の別記、見ていただくとわかると思うんですけど、
0:58:56	いわゆる、
0:58:57	検証建屋とか建屋のSクラス建屋の
0:59:00	に対しては、終局時、
0:59:03	変形に対して十分な余裕を持たせる。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:07	たものが、
0:59:08	今日限界なんていうとそれが 2000 マイクロなんですよ。だから 2000 マイクロは終局じゃないですよ、終局っていうと 4000 マイクロぐらいなっちゃうんで、
0:59:17	ここで書きちゃうとんね。
0:59:20	今まで他サイトでやっていないもの、実際に 4000 万ぐらいあれば商業国は、山路技術的間違いはないんですけど、
0:59:29	今野層、
0:59:31	発電炉の狂言会で用いてない表現が出てきてしまうので、
0:59:35	そこに違和感を持って多数の
0:59:39	コメント、
0:59:40	出されてます。なので、さっき言ったように、こちらが言ったように、
0:59:46	用語を間違っって使われちゃうと、すごい混乱招くので、
0:59:51	この辺を我々が言ってるかったら今回そっちの方なんですけど、
0:59:55	この基準、新規制基準の適合性なんですよ。新基準。
1:00:01	規則に書いてない違法使ったり、造語を使ってしまったりしてしまうと、大混乱してしまうと井川さん。
1:00:08	この辺はよろしくお願いします。ちゃんとこの辺はコントロールしてくださいね。以上です。
1:00:17	規制庁の三浦ですけど、私ここで書かれてる意図っていうのは、
1:00:22	もともと 2 番目の矢羽根で、
1:00:25	間接支持としては、先ほど江崎が話してたように 2000 マイクロ、せん断ひずみが 2000 枚くらいから抑えますよって言ってるんですよ。
1:00:35	で、電気建屋そのもので考えてみればこれ波及影響なので、
1:00:39	これが倒れない、波及を及ぼさないっていうクライテリアは終局限界で構わないはずですよ。
1:00:46	だから、それを区分けして来書かれてるんだなっていうふうに理解をしたんですが、かえって書いてあることでわかりにくくなってしまって、
1:00:55	ここはむしろあるかもしれないですね、2 番目の矢羽根で、せん断ひずみ要するに、間接支持等として要求される教育委員会の中にも納めてますよっていうことがもう電気建屋そう書かれているので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:01:08	上記クライテリアを満足することで位置付け放水ピットってというのは、排水係留を維持する結果としても維持する設計となってるってのはわざわざここで、
1:01:18	あれじゃないですか。終局状態にならないっていうなことを書かなくてもいいんじゃないかなって気がするんですけどね。もう2番目ですべて言ってるんじゃないですかということなんです。
1:01:28	多分そういうイトウだと思います配給的影響は終局ひずみでいい。
1:01:32	間接支持としては、2000枚から、
1:01:35	それを区分けして考えてもかえってそれがわかりにくいかなという気がしました。
1:01:41	はい。北海道電力の井戸でございます。三浦さん、補足いただきまして、まさにそのような意図で、変えているところでございます。
1:01:52	区分けをわざわざ設けるのが適切かというところ建築部門と改めて確認して、記載の適正化したいと思います。大澤さん。
1:02:00	何か本店側から補足があればお願いします。
1:02:07	あ、北海道電力大澤です。今三浦さんの方からご指摘いただいたような内容でこちらも同じような認識でございますあくまで電気建屋自体波及影響の評価対象の建屋ですので、波及影響の観点でのクライテリアとして、集客の4000マイクロと、
1:02:23	いうことを基本として考えておりましたが、耐震性S _s 機能維持する配管を設置してる地下部においては2000マイクロ以下であることも確認いたし、
1:02:34	することをもって完全支持機能を持たせるといような考え方でちょっと書き分けしておりましたがちょっと記載の方は
1:02:41	社内で今一度確認させていただきたいと思いますはい。以上です。
1:02:49	規制庁岩城です。私ちょっと勘違いしてたんですけど、この最後のやつと波及影響なんですよね。波及影響であれば波及影響と書くべきなんじゃないですか。
1:03:01	はい北海道電力の伊藤でございます波及影響という言葉がないことも、誤解を招く原因になっていると思いますので、そこも含めまして、はい。区分けしないで書くのかなと思いますけれども対応は検討させていただきます。以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:23	はい。規制庁藤間です。今のこの江藤電気建屋と一次系放水ピットに関連して、何か追加で補足されたい方とか、
1:03:39	規制庁大橋です。
1:03:41	パワポの4ページの方なんですけど、
1:03:44	4ページの二つ目の黒丸ルーのところ、
1:03:49	その最初の矢羽根で、湧水ピットポンプポンプそのものに対して、
1:03:54	S sに対して構造健全性を確認するっていうこと書いてあるんですが、
1:03:59	例えば構造健全性っていう、
1:04:01	どういう意図でつくって使ってるのかが、これもちょっと不明なんですけど、
1:04:07	単純に構造健全性って考え書かれちゃうと、ポンプの基礎ボルトだとか、そういう評価を、
1:04:14	振るぐらいかなみたいに見えちゃう。
1:04:17	これポンプそのものの、
1:04:19	機能維持を確認するっていうのも含んでるっていうことでいいですかここちょっともう少しね、はっきり書いたほうがいいかなと思うんですけど、お願いします。
1:04:30	北海道電力の人でございます。まさに排水、雨水の送水機能として、動的機能維持を意図した記載でございますのでそれがわかるように、記載を適正化いたします。
1:04:44	はいお願いします以上です。
1:04:48	規制庁の谷口です。やっぱりその辺はよくわからないんですね。電気建屋は現金だけ機能として必要な耐震クラスがあって、電気建屋はどういう機能を、
1:05:01	満たさないといけないかっていうこと。
1:05:04	それから、一次系放水ピットは水をためるところであって、それについては、どういう例えば、ここは通水機能を維持しないといけない部分の、
1:05:16	対象になる部門で通水機能を確保するためには、どういう限界を、基準を確認しないといけないのかっていうことが、
1:05:26	で、それが建物等のおんなじであれば建物の書庫と同じものをやればいい。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:32	そういう、一応、各建屋なり、またピットなりの機能がきっちりあるので、その木戸に対して、評価する基準をどこに押さえるのか。
1:05:44	いうことをきっちり整理していただいて、この辺の文章を書かないと、
1:05:48	構造的の健全構造健全性を確認するっていうふうに書いてあったり、いろいろ取得でやるって書いてあったりするんだけど、それが何を意味するのかが全然わからないので、
1:06:00	具体的になぜやるのかっていうことをわかるように記載をしていただきたいと思います。言葉が非常にあやふやなので、
1:06:08	終局って言うてみたり、構造健全性って言うてみて、じゃあ、構造健全性ってどこまでやるのっていうことも含めて、よくわからない言葉をちょっと、
1:06:19	使いすぎてるので、訳わかんなくなっちゃうところあるので、ちょっとその辺を整理して、きっちり説明してください。
1:06:27	まだ決まってないんだよ。決まってないのであれば、こういう検討をしている。次の局では、許可で示すものを、また、
1:06:38	公認でやるべきものっていうのをちゃんと整理していただいて、次に渡していけないといけないものがあるのであれば、それをきっちり
1:06:48	許可の中で、次、こういうことやりますっていうイメージ。
1:06:51	宣言しとかないと、ここでも褶曲でありますって言っちゃうと、もう宣言した上で、実際やってみたら違うよって話になっちゃうと困ると思うので、
1:07:02	その辺を含めて、もうちょっと慎重に、
1:07:05	そのように使い分けをしてへの対応していただければと思います。よろしくお願いします。以上です。
1:07:14	はい。北海道電力の井戸でございますご指摘、拝承いたしました構造健全性ですとか、
1:07:21	終局食う体力ですとか終局状態とかは具体的に何をもってそれを確認するのかっていうところの書き足りなさっていうところがあると思いますので、各々の
1:07:33	対象に対して何をするのか、方針であるならば方針として何を話せるのかというところをわかるように、記載を充実させるという対応をしたいと思います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:07:46	はい。その電気家庭と一次系放水ピットに関して及び参加の方も含めて、
1:07:54	よろしいですか。
1:07:55	はい。じゃ、
1:07:57	%本化してその他事実確認とか、に移りたいと思います。
1:08:05	規制庁ナカさです。5 ページ目の矢羽根の一つ目で、
1:08:11	原子炉補機冷却海水量は耐震Cクラスが現状アマノ防止によって支持されてるか。
1:08:21	岩着構造に、
1:08:23	変更し、基準地震動に対してっていうんですけど、
1:08:27	岩着構造に変更するということはどういうふうな計画なんでしょうか。いわゆるMMRで岩着するのか、もうそれともこれ自体をですね、岩盤の中に通すのか。
1:08:40	これ、具体的な計画がなくて単に書いて思いつきで書いてあるような、もう少しですね、具体性のある話をしてくれないと、
1:08:49	わからないんですけど、この点はいかがでしょうか。
1:08:55	はい。北海道電力の衛藤でございます。今補機放水量につきましては、今の高さを基本維持しまして、MMRでを追加して指示すると。
1:09:08	いう計画でございますので、それがわかるように記載したいと思います以上です。
1:09:20	規制庁の江寄です。この件に関しては、以前から私ともう口頭では聞いていて、例えば5 ページ、
1:09:28	1-1 の5 ページの、
1:09:31	添付7-4 の図の左側ですよ。
1:09:34	ここで、補機冷排水の
1:09:38	ありますけどその下が岩盤がかなり深く、
1:09:41	あるっていう形ですけどきタカハシさんなんかには聞いてるのは、比較的調べたら意外と浅いので、
1:09:48	MMRができるという話を聞いていて、
1:09:52	であるならば、もしかしたらこの今本中だけなんですけど、今これっていうのはちょっとMMRにするにはちょっと字現実性のないような深さにはなってるけど、もっと浅いっていう話なのかなというふうに磯崎。
1:10:04	聞いたんですけど、私が言いたかったのは、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:10:07	現実的に直した方がいいんじゃないですかっていう話だけなんですけど、看板ラインを、
1:10:14	はい。北海道電力の井戸でございますご指摘承知いたしました。江崎さんおっしゃっていただいた通りで、
1:10:21	岩盤そんなに安定ですと、深く見えますけれども、
1:10:28	労基法整理の
1:10:30	方が今パターンというか低迷が7.2メートルTP7.2メートルで示してますけれども、岩盤浅いところだとTP5.5メートルとか、そのぐらいの
1:10:42	距離かなと、一部深いところもありますけれども、社内の検討では、MMRの施工課題はありますけれども可能じゃないかということで、それは衛藤高橋からお話があった通りかなと思いますので、
1:10:56	i P h o n eでもう少し、
1:10:59	見直したいというふうに思います。
1:11:05	理事長の三浦です。絵は直された方がわかりやすくいいと思うんですが、
1:11:10	MMR。
1:11:11	おっしゃられたんですけど、
1:11:13	これはあれですか、彫り込んで置換するんですか。
1:11:17	何かちょっとイメージが湧かないんですけど。
1:11:22	はい北海道電力の伊藤でございますと、すいません本店側で、
1:11:29	今のわかる範囲で結構なんですけれどもご回答いただけますでしょうか。
1:11:35	はい。北海道電力の河村です。現状考えている方法といたしましては今あるハウスイ、原子炉器改正法水路を撤去した上で掘り込んでMMRで置換して立ち上げて再度再構築するようなイメージで考えております。以上です。わかりました再構築するっていうことを、
1:11:54	が前提なんですね。作り直すことですね。
1:11:57	わかりました。
1:12:07	今のね、これ季節を残しながらMRって多分無理ですよ。うんだから全面撤去でやるってことで理解しました。はい。どうもありがとうございます。
1:12:20	その他、電気建屋とって、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:12:23	あと、失礼しました。その他のパワポに関する事実確認とかございますでしょうか。
1:12:40	決得赤津さんと、
1:12:42	作るんだな。今、庁内で打ち合わせ中ですので少々お待ちください。
1:13:16	規制庁藤山です。庁内打ち合わせが終わりました。次に進みます。
1:13:20	はい。規制庁の伊藤です。記載だけです。4ページの、
1:13:25	添付7-2図。
1:13:27	建屋の断面図なんですけど、地下水排水配管。
1:13:34	一次系放水ピットの手前あたりで何か合流してるように、この図だと見えていて、実際は多重化されていて平面図で見ると、
1:13:44	ちゃんと系統分かれてるような形になってると思うんで、ちょっとここ、この図だけだと、多重化図れてないようにも見えるんで、そこは適正化していただいてよろしいですか。
1:13:56	はい。北海道電力の井戸でございます。ご指摘承知いたしました。
1:14:01	末端まで、多重化するということは間違いございませんのでちょっと根底の範囲で示してるということで、分かれてることがちゃんと見てとれるように、記載修正いたします。
1:14:13	はい。私から以上です。
1:14:17	規制庁藤間です今回の説明資料の3項以外の内容について規制庁側からウェブで参加の方も含めて、いかがですか。
1:14:29	よろしいそうですね。はい。一応今回のヒアリングでの説明対象である、このなんだろう、5ページまでの間についてははい。
1:14:40	以上となりまして一応6ページ以降というのはもう、
1:14:43	以前の審査会合で議論が完了しておるようなものでありますので、ちょっと、特に大きな議論をやるつもりはちょっと今のところなんすけどもしどうしてもここで言うておいた方がいいと思われる審査官がいるようでしたら
1:14:58	お願いしますはい。
1:15:06	規制庁の三浦です。
1:15:10	これ天候の話が、何ページだったっけ。
1:15:21	19ページですか。
1:15:23	これ

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:15:25	マーカー維持管理するために点検孔設けられるって修正下のですね。
1:15:29	で、
1:15:30	これ、具体的には、集水柵みたいのを作る。
1:15:36	多分こういうイメージだと思うんですよ。
1:15:38	永松みたいのを作ってそこに修正観光、
1:15:42	何とかつなげてきて、
1:15:44	集水管を点検するのに使うっていうようなイメージですか。
1:15:49	ちょっと点検どういうふうな、
1:15:51	イメージ書かれて、今思われてるのかってちょっと聞かせていただけますか。
1:15:57	はい。北海道電力の伊藤でございます点検孔につきましては今、詳細設計中でございますけれども、
1:16:06	待つというよりは本当に立坑を集水管に直接アクセスできる深さまで掘り下げて、
1:16:14	そこに点検用の機材が入りますので、その大きさを確保して、
1:16:21	点検時には、下までこう端っこなりに降りていって、中に入って、カメラを入れたり、清掃チーフを入れたりすると、そういう
1:16:32	ことを考えてます
1:16:34	これもあれかな。河村さん、今の点現行の話、もう少し補足いただけますかね。
1:16:47	北海道電力本店の三上ですけれども、今井藤が申した通り点検孔自体につきましては、中に人が入って行って、点検とか作業ができるような構造の、
1:16:59	ピット構造立坑を想定して設計をしてございまして、先ほど伊藤が申した通りでございます。
1:17:06	規制庁の三浦ですけど。
1:17:08	これ点検孔から修正管を多分、維持管理するんだと思うんですが、集水管とはこの点検工程は繋がってない。
1:17:19	できなっただのが、この点検孔が、そのビューロー集水管としての流路の一部を形成し合わないですよっていうことを確認したかっただけ。
1:17:29	要するに、何かこう穴開けて集水管がそれに取りついてすれば、現行ってのは流路を形成しちゃうでしょう。修正下の一部になっちゃうから。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:39	そういうことはないですね。もしも流路を形成するんだったら、成績の維持対象。
1:17:45	Vになっちゃいますよねっていう。
1:17:47	そこをちょっと確認しただけです。
1:17:50	はい北海道電力の伊藤でございます。集水機能自体を建てコガになることはございません独立した、集水管自体にアクセスはできますけれども、
1:18:01	集水したり排水したりっていうことは行う機能は持ってない、そういう立坑でございます。
1:18:08	わかりました。集水管とは分離されてる。
1:18:11	いうことで理解しました。はい。結構です。
1:18:29	規制庁しちゃう1点だけ、フタミコウノ、コガアノ壊れたとしても何か集水管のさっきの、何だっけな、今、
1:18:36	何で集水機能に何か波及影響を与える、そういうことはない、ないような構造を今検討されてるっていう、そういうお話かなと思うんですけど、そういう理解でいいんですかね。
1:18:47	はい。北海道電力の伊藤です設計上等に影響はないように配慮しているというふうに認識しております
1:18:56	三上さん、ぜひ、大丈夫でしたっけ。いいですね。はい。
1:19:01	はい北海道電力の三上です。その認識で間違いございません。
1:19:26	今省内で打ち合わせ中で少々お待ちください。
1:19:38	他に確認しておきたいこととか、よろしいですか。
1:19:44	はい。
1:19:45	それでは、じゃあ、今日は宮ミヤモトですけど。
1:19:48	はい。宮元さんお願いします。
1:19:50	大丈夫すか、すみませんちょっと全体、全体的なところで、ちょっと言っといたほうがいいかなと思うのは、資料1-1これ
1:19:59	今回の運営委員会の指摘事項に対する回答ということで、3ページに書かれていますんで、
1:20:06	先ほど初めの方に、江崎含めた指摘があった私も含めて指摘があるのでこれ直されると思うんですけど、これ、今後のモチギ方としての考え方って今事業者として、
1:20:19	回答できるかなというのを確認したいなと思ってや要はね、今ここで書いてある指摘事項は、S s機能維持とする範囲というのはここまでにしますっていうのが書かれていますと。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:31	排水経路にS s 機能維持しない範囲がある場合はハタケの合格で完全閉鎖する可能性を検討して、検討した結果として耐震Cクラスの放水量から、下降側が可能性としてはありますよと。
1:20:44	ただし先にちょっと説明されたように崩落しないということを説明するのが崩落した場合でも、仮設ホースでつないでできるかっていう、ちょっと要は直で書いてあるのか。
1:20:57	それとも及びで書くのか、それともどちらオカを前面に出すのかってのは事業者でよく考えてここ整理していかなきゃいけないかなと思っていて、その上で要は今回の会合をどうアラスカってのはよく考えてくださいだけは一応言っておこうかなと思います。いいですかね。
1:21:16	北海道電力金田でございます。今の宮尾さんのご指摘の通り、我々としてまず、ポンプの話と、あとCクラスのところの放水炉底を
1:21:28	及びにするのか、放水炉をあくまで包絡する可能性が非常に低いと。従って念のための、
1:21:36	排水ですか、そういう形にするのかってことは、今、今一度もう少し他社のその実績、先ほど申し上げたようなことを調べた上で、我々として説明できるかどうかって事を判断して決めたいと思います以上です。
1:21:50	はい。よろしく願います。それであと、ちょっとこれ私、もう1個だけ確認したかったのはちょっと忘れたんですけど、今回説明されている、
1:22:00	水路から下流側の、
1:22:05	放水池と、放水ロツテ放水路自体がな、こういう構造要は地下構造になってるサイトっていうのはこれ北電だけですかね。
1:22:24	阿保アノ北海道電力ちょっと確認中でございます。
1:22:42	構成自体は一般的な、
1:22:47	はい。北海道電力の伊藤でございますちょっと具体的ななんな、どこの何号炉という話はできないんですけども類似の設計があるのではないかということで今社内確認しましたので、そこは、
1:23:01	はい。回答に含めてできるの。
1:23:07	はい改めて明確に調べた上でお示ししたいと思います。以上です。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:23:13	わかりました要はね他の先行、PでもBでもそうなんですけど、ただ、こういう地下に放水量を合わせてるやつではなくて、
1:23:25	そのままこの一時補1時補機放水量のように、掛け流してかそのまま外に出してるプラントの方が比較的多いんじゃないかなっていう気もしてたので、
1:23:37	そうすると泊の特徴としてこのコース池があって然に岩盤の中に放水量があってホース工水ピット放水の放水系という構造になってて、
1:23:49	冬季に出してるものが、プラントユニークであればそこは明確にしといた方がいいかなという意味での指摘でした。いいですか。
1:23:59	はい。北海道電力の井戸でございます縫製地方水、泊ユニークなのかというところを確認させていただきます以上です。
1:24:12	はい。私の方から以上です。
1:24:23	今庁内打ち合わせ中で少々お待ちください。
1:25:00	規制庁藤丸です。衛藤長南チャンスがありましたので、ヒアリングコメント回答リスト資料1-3に基づいて了解済みかっていうのを改めて確認したいと思います。
1:25:11	資料1-3を手元に持っていただいてナンバー22、
1:25:16	ページ数省略していきます。このナンバー22について排水経路の耐震性信頼性について設備の信頼性の中であわせて説明することというふうに書かれておりました、
1:25:29	これは何なんすかね排水系で先ほど何か今ホース色とホース1ってというのが、ちょっと何かいまいちよくわかんなかったんでこれは、
1:25:39	もう1回ちょっと再検討いただいて継続とさせていただきます。
1:25:44	その時に13番は、
1:25:48	これは現状の方針として乾式建屋に成績のそうですねこれは一応建屋はもうS s 機能維持っていう間接的地域のかなという言われてますのでこれは
1:25:59	済みとさせていただきます。
1:26:02	ただ終局限界とか、改めて別途、今日コメントだと思うんでそこら辺をちょっと明確に資料の方は明確にしてください。
1:26:11	その時に14番は、
1:26:14	三重の排水経路において、
1:26:20	話があった。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:22	正確な、
1:26:23	新たに作った方がいいんだよ。
1:26:27	規制庁の江寄です。
1:26:29	全部回答できてるかっていうところが納得できるところまでは いっていないのは事実なんだけど、新たにコメント今日作っている ので、一旦ここは一応、
1:26:39	網羅的になっていう形で書いてあるように一応、
1:26:42	情報は一応出したところでその中でまだ十分じゃなかったり、ま た、
1:26:46	こっちの思案中だのものがまだはっきり
1:26:49	されていないので、我々としてその適用性の判断ができないとい う、
1:26:53	コメント今日多々ありました。それに関しては、新たなコメント を作って、させていただいてこれは一応、一旦、
1:27:01	これで終了させていただいて
1:27:04	いきたいと思います。
1:27:07	そうです。
1:27:10	はい、じゃあ、続きましてナンバー25番。
1:27:14	電気建屋は泊P S 固有の設計書要求機能を整理し、構造等を踏ま えた評価について検討すること。
1:27:23	これについては電気建屋への要求機能という観点ちょっと何かあ まり内郭防護、
1:27:30	ウーンに関するちょっと関係がちょっと若干不明なところあった んでこれちょっとメーカーサイドを整理した上で、また今日コメ ントが出てますけど合わせてもう1回、再度継続させていただい て回答いただけるようお願いいたします。よろしいですかね。
1:27:44	はい。北海道電カイトウで想定しました。
1:27:48	続きまして、ナンバー54。
1:27:53	ナンバー54号、11分の9か、これ、これは他条文に関わるところ 担当間で情報共有を図りたい、対応すること。
1:28:03	ちょっと
1:28:05	一応、
1:28:41	そうですか。はいそういうこと。これは、そっか、今のナンバー 25の方で例えば、内郭防護内部溢水とか、いうふうに絡めて一 応、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:28:51	やってくださいっていう話なんで、対応できてるかどうかはちょっと何か今日よくわかんなかったんですけど、
1:28:57	とりあえず新たにコメントを今日出しましたので一応、もうこれは角にした上で、はい。
1:29:05	そうですね、じゃあ、あと 54 市大隅にした上でちょっと 25 の方で引き取ってやっていくようお願いします。
1:29:12	その次江藤ナンバーが 65 に有井ますね。
1:29:16	電気と、
1:29:20	そうですね。
1:29:28	失礼しました。はい。
1:29:30	ナンバー65で、
1:29:33	これはそうですね仮設支持機能としての要求の有無というのは、はい。す。やってることです。これもさっきの終局限界とかいろいろありますけど一応このコメントは了としてまた別のコメントで引き継がせていただきます。
1:29:47	コメント回答の内容については以上ですので、規制庁側から或いは北海道電力から全体的に何かまだ、
1:29:58	確認とか、よろしいですか。
1:30:04	すいません、負担分だけ。
1:30:07	規制庁永長です。
1:30:10	資料 1-2 の 60 ページ G のところで、
1:30:14	想定湧水量に対して 172 平米に対して、U字管 3 時間って言って、これに対しては、この表のコメント、
1:30:27	そうですかね。
1:30:35	すいません、コメントのこれ 8 番で、
1:30:39	設工認段階で、予測会、地下水の予測解析モデルについてはっていう、あるんですけど、このときに、
1:30:48	実際は、
1:30:51	当初の解析よりMMRの範囲が増えてたり、
1:30:55	多分今後、議場下の追加データで、
1:30:59	によっては、地盤改良の範囲も増えますので、それもあわせてですね、設工認段階で詳細解析をして欲しいというのをちゃんとですね、
1:31:11	このまとめ資料の中で、
1:31:14	記載して欲しいんですね。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:17	それから、
1:31:18	及び海津議員をベースにより詳細な解析については、
1:31:23	その設工認段階の、今言ったMMRとか地盤改良の範囲及び、本 当の裕度を見るためには、
1:31:34	設工認段階で詳細解析を行うということをどっかで記載して欲し いなと思っております。よろしいでしょうか。
1:31:44	はい北海道電力の伊藤でございます。仲さんの保守的はい賞でご ざいます。
1:31:51	今資料1-2ですと、
1:31:54	27ページにですね、
1:31:57	湧水ピットポンプの排水能力ということで、
1:32:01	27ページ等シバ27ページ左上の方から、あんな中段辺りになお書 きで、3次元でもう1回、すいません3次元で解析モデル解析目下 やりますということで、
1:32:13	書いていて、すいません、27。
1:32:19	ここはいいかなあ。
1:32:24	なお、
1:32:29	はい。あ、すみません27よりも
1:32:34	あれもう1ヶ所あったはずなんですけど。
1:32:41	そういう点、添付じゃなくて本文側にあったと思いますんですい ません今出てこないんですけれども、追加になる地盤改良等を考 慮した解析を行うということを、
1:32:53	明記するように配備いたします。
1:32:58	お願いします。私から以上です。
1:33:03	はい。規制庁おっしゃいます今許可段階で設工認の申し送り事項 ってやつはいくつか出て、多いと思いますのでそういったリスト の中に今のものも含めて、昨日もあったと思うんで、そういうの を含めて管理をしていただけるようお願いいたします。
1:33:18	その他、全体的に、
1:33:22	よろしいですか。
1:33:24	はい。
1:33:25	じゃあ、今日のヒアリングは以上としたいと思います。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。
発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。